

AKIBA HOLDINGS

2025年3月期

第3四半期決算説明資料

2025年2月14日



1. トピックス・概況
2. 2025年3月期第3四半期決算
3. 2025年3月期業績予想
4. セグメント別概況

5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



第3四半期の売上高、営業・経常利益は前年同四半期を上回る水準で進捗 成長投資継続し、修正後の通期業績予想の達成目指す

3Qの売上高、営業・
経常利益は堅調に推移

売上高及び営業・経常利益については、経済環境不透明な中、各事業セグメントの取り組みが奏功した結果、繁忙期前の第3四半期会計期間において堅調に推移

修正後の通期連結業績
予想は据え置き

第2四半期決算時に修正した通期連結業績予想は、第3四半期の堅調な業績推移を踏まえ据え置き

経済環境の変化に対応
する事業基盤の強化を継続

経済環境・社会環境の変化に伴う不透明感が続く中、将来の成長に備え、ビジネスモデルの適応を推進。また、安定した収益を確保するための事業基盤強化に加え、新規商材の投入やM&Aの推進、通信建設テック事業での新規分野進出を通じて収益力の強化を図る

3Qは不安定な事業環境の中、売上高及び営業・経常利益ともに堅調に推移 将来成長に向けた投資と事業基盤強化を継続し、修正後の業績予想達成を目指す

2025年3月期第3四半期においては、為替動向の変動と政治情勢・経済環境の先行き不透明感から不安定な事業環境が継続しております。

このような環境の中、売上高については第3四半期まで堅調に推移し、事業基盤強化に向けた成長投資の実行による販管費の増加をこなし、第3四半期会計期間の営業利益は前年同四半期を上回る結果となりました。その結果、第2四半期決算発表時に修正した通期連結業績予想は現時点において据え置くこととしております。

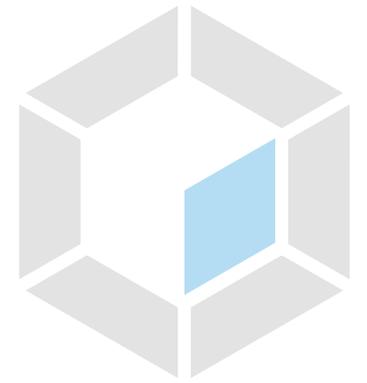
グループ全体の来期以降の継続的な成長に向けて、新規商材の投入、M&A等による成長事業への戦略投資、事業執行体制の整備等を推進することにより、事業基盤の強化を継続し、収益力の強化を図ってまいります。

	2024/3 3Q実績	2025/3 3Q実績	前期比	2025/3 業績予想 (11/13修正後)	前期比
売上高	10,909	12,243	112.2%	16,600	104.7%
営業利益	534	352	66.0%	550	65.6%
経常利益	535	310	58.0%	510	60.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	315	45	14.4%	122	41.7%
一株当たり 四半期純利益	34.35円	4.93円		13.28円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2025年3月期第3四半期決算





メモリ・PC関連デバイス・IoT

ADTEC

株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック

Buddy Net

Leavan

Branch Techno

株式会社バディネット

株式会社リーバン

株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等

※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）

H P C
(高性能科学技術計算機)

HPC TECH

株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

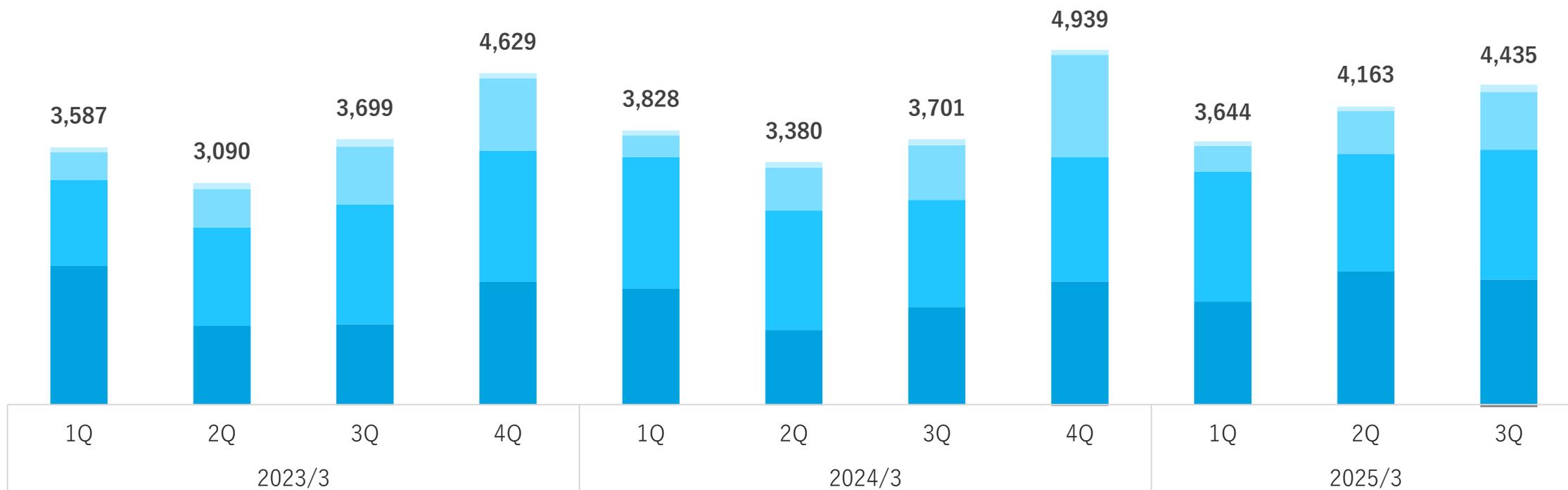
不安定な事業環境の中、3Qの売上高は前年同四半期を上回る 事業基盤強化による販管費投資継続しながら堅調に利益獲得

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	12,243	112.2%	352	66.0%	
メモリ・PC関連 デバイス・IoT	5,049	125.5%	△83	—	一時的な需要変化及び大型案件獲得等により売上高伸長し、原価高騰の中、3Q利益計上
通信建設テック	5,238	104.5%	252	71.0%	新規連結の貢献、新規領域の推進により、前期までの大型案件終了の影響をこなし増収
HPC (高性能科学技術計算機)	1,771	106.6%	117	64.3%	販促活動強化で前年同四半期を上回る売上確保、競争激化により営業利益は前期を下回る
その他 (旅館ほか)	183	87.4%	65	70.2%	行楽シーズンの遅れがあるも売上前年並みを確保。コスト見直しで3Qは営業利益計上(全社費用等の調整額を含む)

M&Aによる新規連結とメモリ・PC関連デバイス領域の大型案件寄与により 前年同四半期と比較して売上高2ケタ伸長

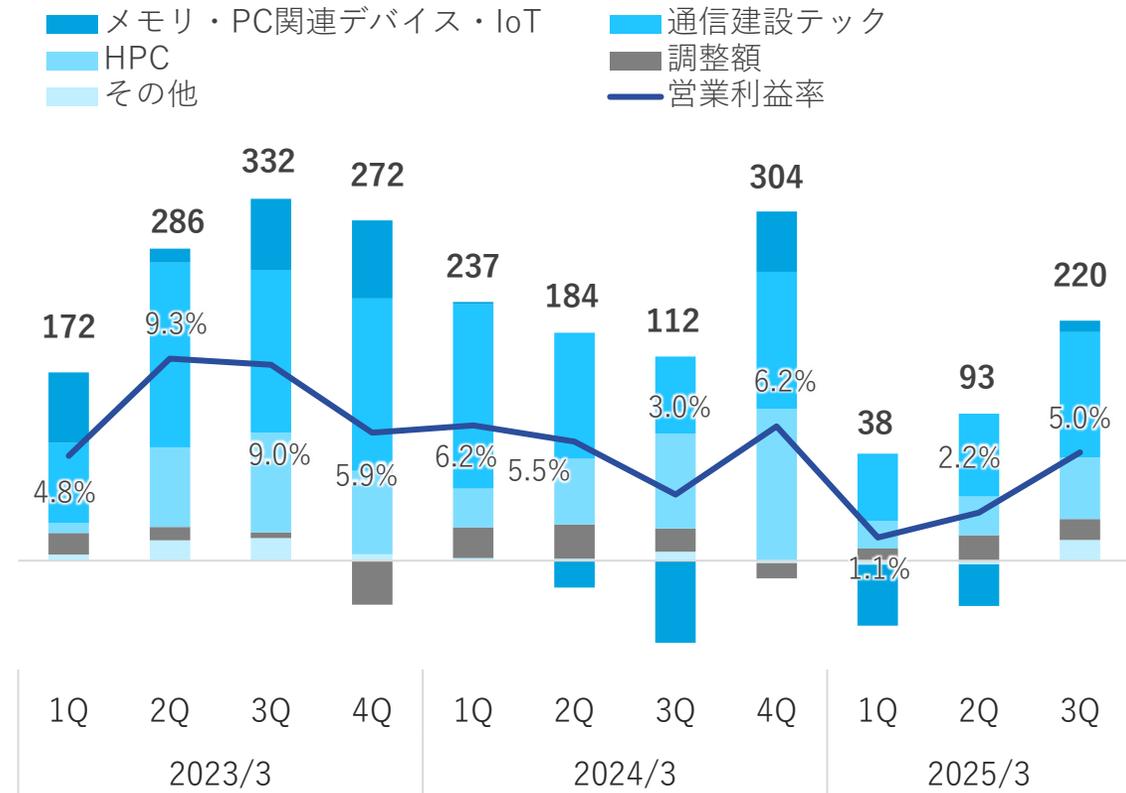
連結売上高

■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

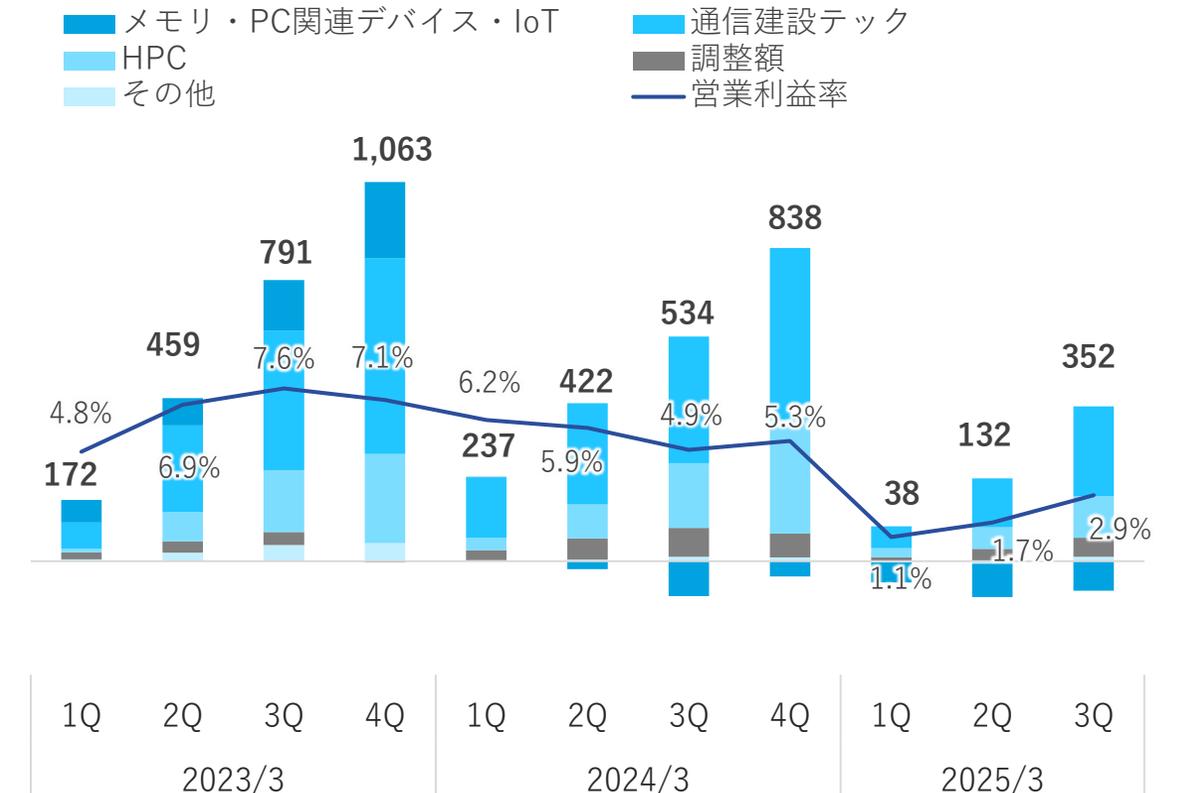


25年3月期第3四半期会計期間は全ての事業セグメントで利益計上

連結営業利益 会計期間

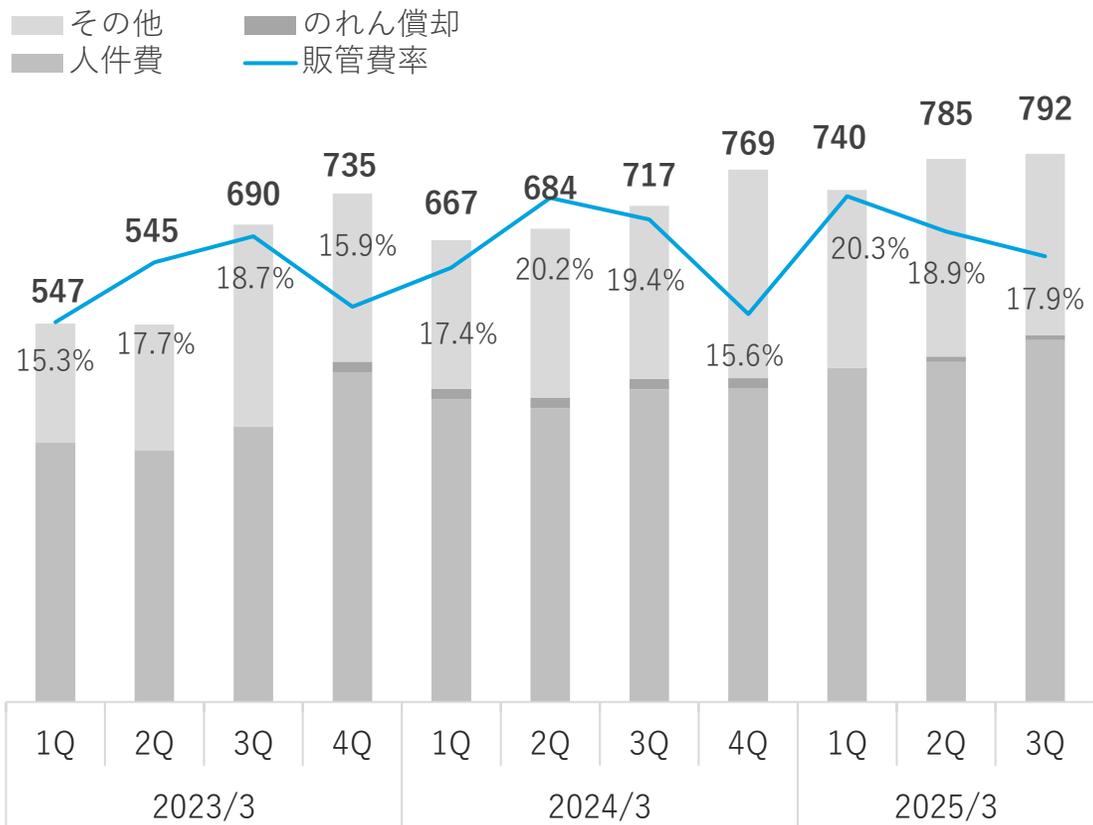


連結営業利益 累計期間

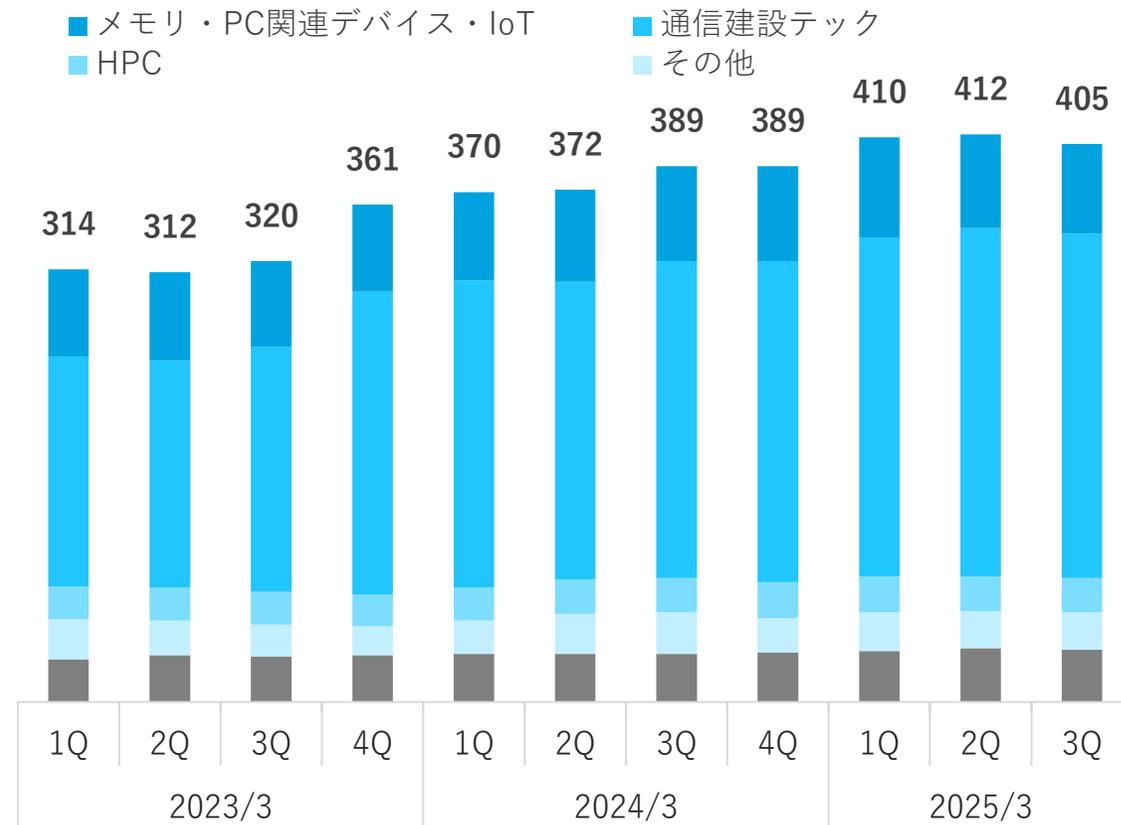


事業の成長力確保のため、販管費の増加傾向継続

販売費及び一般管理費



役職員数 (人)



今後の運転資金及び投資資金確保のため借入金増加 借入金の増加とともに売掛金の回収が進捗し現預金も増加

- 運転資金及び成長のための事業投資資金を確保するため、有利子負債が前期末に比べ約19.6億円増加
- 商材の確保により、棚卸資産が増加するも、売掛金の回収も進み現預金残高は5.7億円増加
- 第3四半期会計期間の純利益計上で純資産回復

連結貸借対照表

	2024/3	2025/3 3Q	差異	前期末比
流動資産	10,749	12,193	1,444	113.4%
現預金	4,168	4,746	577	113.9%
売掛債権	4,691	4,246	-444	90.5%
棚卸資産	1,655	2,007	352	121.3%
固定資産	719	831	112	115.6%
資産合計	11,468	13,024	1,556	113.6%
流動負債	6,313	6,281	-31	99.5%
短期借入金	3,450	3,450	0	100.0%
一年以内返済予定長期借入金	548	1,032	483	188.1%
一年以内償還予定社債	58	50	-8	86.2%
買掛金	1,565	1,236	-328	79.0%
固定負債	1,359	2,876	1,516	211.5%
長期借入金	1,190	2,684	1,493	225.4%
負債合計	7,673	9,157	1,484	119.3%
株主資本	3,419	3,464	45	101.3%
資本金	100	100	0	100.0%
利益剰余金	2,537	2,583	45	101.8%
負債・純資産合計	11,468	13,024	1,556	113.6%

売上高について大型案件等で前期比2ケタ増収の進捗 原価高騰等の外部環境厳しい中、第3四半期会計期間で前年同四半期を上回る利益確保

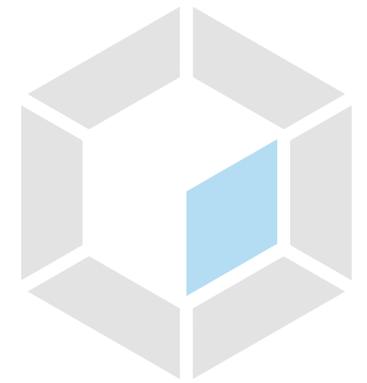
- 売上高については、大型案件の獲得、新規連結子会社の寄与で3Q累計で2ケタ上回り、為替の影響及び原価の高騰等をこなし売上総利益も累計で増益
- 事業規模拡大のための人員確保のほか、事業基盤強化のための成長投資、新規連結子会社の影響等により販管費が増加するも3Qにおいて前年同四半期を上回る利益を確保
- 3Q累計四半期純利益は、第2四半期に特別損失150百万円（貸倒引当金繰入額）を計上するも3Q累計で黒字転換

連結損益計算書

	2024/3 3Q	2025/3 3Q	差異	前期比
売上高	10,909	12,243	+1,333	112.2%
売上原価	8,306	9,572	+1,266	115.2%
売上総利益	2,603	2,670	+66	102.6%
販売費及び一般管理費	2,069	2,317	+248	112.0%
営業利益	534	352	-181	66.0%
営業外収益	17	19	+2	111.9%
営業外費用	16	61	+44	370.4%
経常利益	535	310	-224	58.0%
特別利益	0	0	0	—
特別損失	0	150	+150	—
税金等調整前四半期純利益	535	160	-374	30.0%
法人税等合計	178	89	-89	50.1%
四半期純利益	356	70	-285	19.9%
非支配株主に帰属する四半期純利益	40	25	-15	62.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	315	45	-270	14.4%

03

2025年3月期業績予想

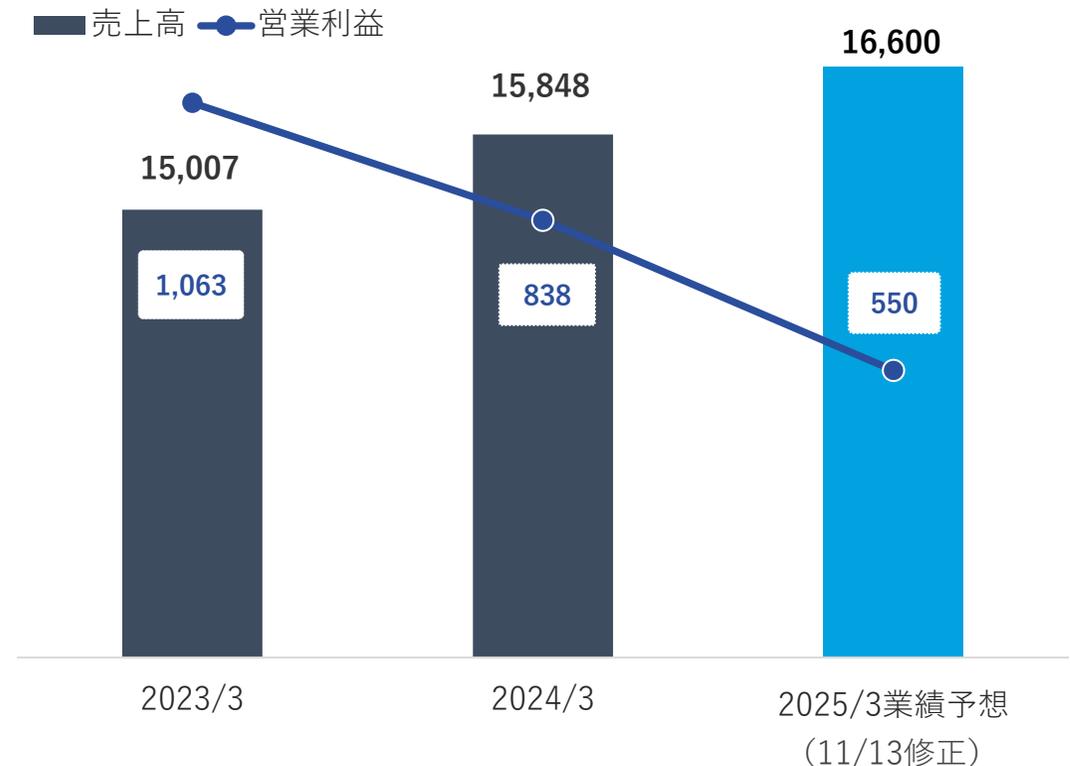


第3四半期会計期間の堅調な業績推移を踏まえて、 第2四半期決算発表時に修正した通期連結業績予想は据え置き

通期連結業績予想の概要

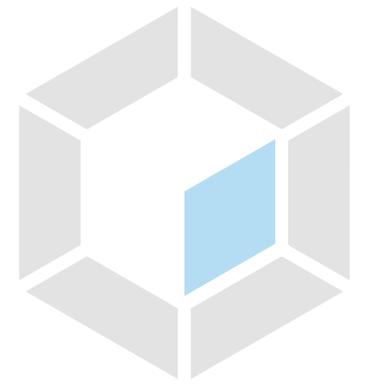
	2024/3 連結業績 (実績)	2025/3 業績予想 (11/13修正)	前期比
売上高	15,848	16,600	104.7%
営業利益	838	550	65.6%
経常利益	844	510	60.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	292	122	41.7%

- 第2四半期決算発表時点で修正した連結業績予想は、第3四半期の堅調な業績進捗を踏まえて据え置き
- 第4四半期については、為替動向や市場環境の不安定な状況は継続する中、事業拡大に向けた投資や社内管理体制の強化を推進する事による販管費の増加施策は継続



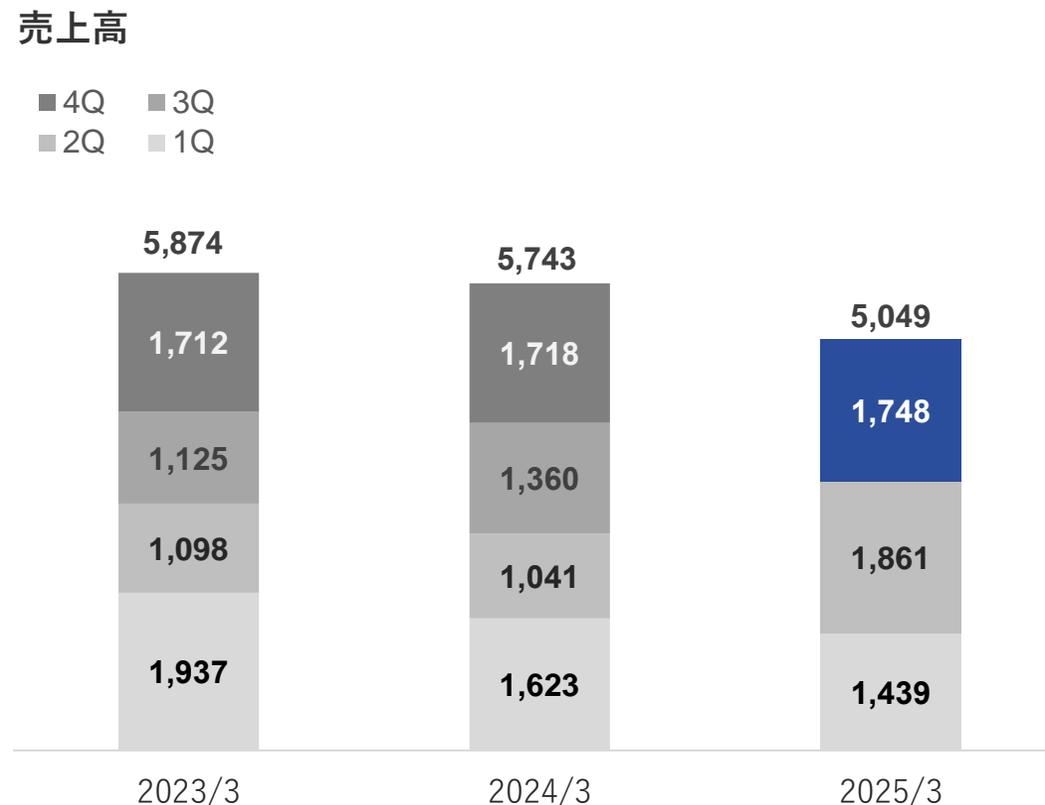
04-1

セグメント別概況 (メモリ・PC関連デバイス・IoT)



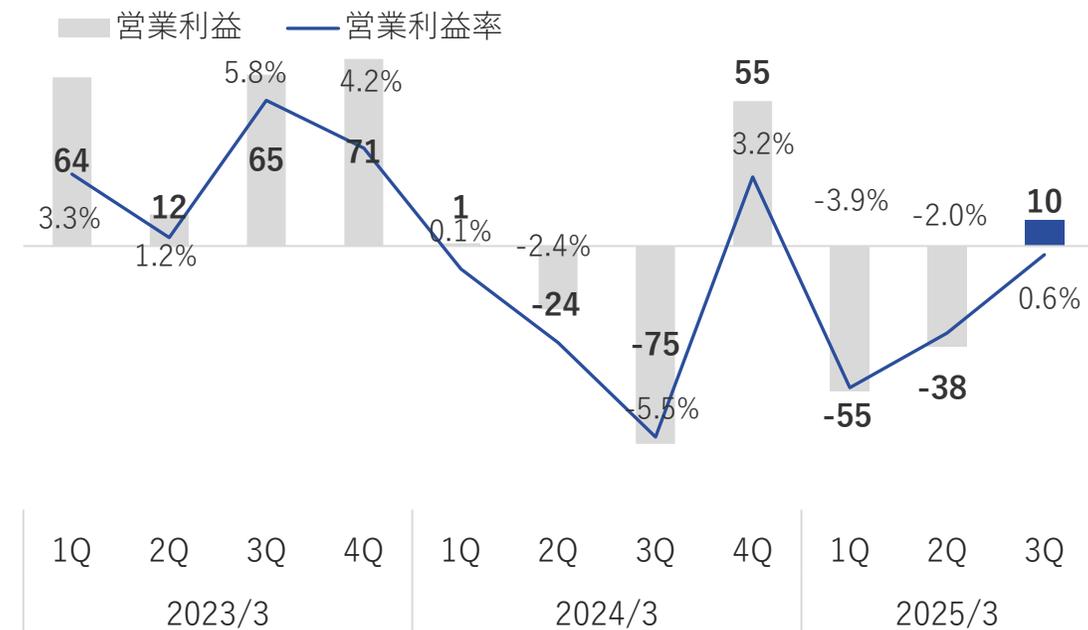
PC関連商品の一時的な需要変化とともに大型案件の受注継続で大幅増収

- Windows11への移行を前に市場のPC出荷台数が拡大する中、メモリ製品やパソコン関連商品の一時的な需要変化が見られたことを受け、前年同四半期を上回る売上高を計上
- メモリ製品における大型案件受注が3Qも継続し増収に寄与
- B2C向け商品投入、新規事業を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る

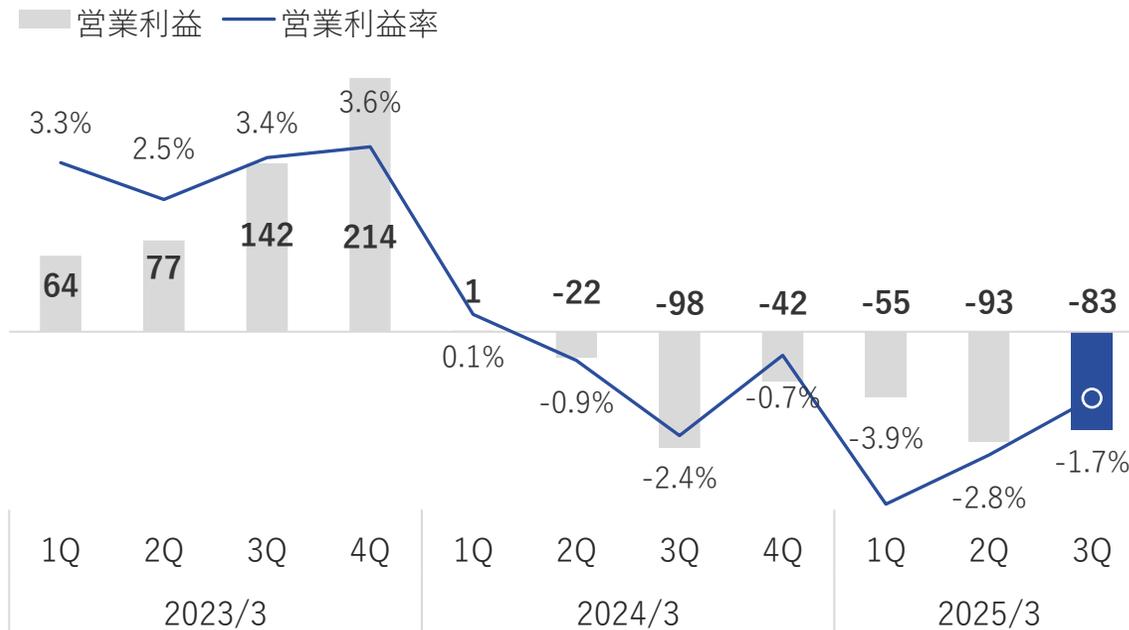


PC関連商品の一時的な需要変化により第3四半期会計期間で営業利益計上

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- Windows11の入れ替えを踏まえたメモリ製品、パソコン関連商品の一時的な需要変化を受け、売上高の増加に加えて、為替変動は大きいもののメモリの原価高騰の流れが一服しつつあることにより売上総利益を堅調に積み上げる
- コロナ禍に先行して調達した在庫の販売に注力したことにより在庫水準改善し、3Qは営業黒字を計上
- 新商材の販売拡大に向けた施策を継続するとともに、適正在庫水準に向け在庫回転率向上を進める

プレスリリース 2024.10.18

PD3.1充電器2種とPD3.0充電器1種が新発売！

～ 本体と同色のUSB4ケーブル付属モデルなどが2024年10月18日(金)発売 ～



「APD-A140AC2-WH-CU4G3」

GaNテクノロジーを採用し、PD3.1充電器としては当社最小サイズを実現。
単独で140Wの出力を誇り、さらに90W+20W(C2+A)のように3機種同時充電にも対応。

「APD-V140AC2-WH-CU4G3」

GaN (窒化ガリウム) を採用しており、低発熱ながら高効率で140Wの大出力を実現。
単独での140W出力はもちろん、他のポートとの同時使用でも、C1ポートは常に100W出力が可能。



「APD-A105AC2-WH-CU3G2」

高効率・高耐久性を誇るGaN (窒化ガリウム) 採用のPD充電器です。
コンパクトなボディに最大105Wの高出力を実現し、単一ポートで最大100W (20Vx5A) にも対応。

製品サイト

<https://www.adtec.co.jp/product/charger/apd-a140ac2/>

プレスリリース

2024.11.28

「SBシリーズ」4機種、産業用UPS電源「SuperCAPシリーズ」3機種発売

～コストパフォーマンスに優れたIntel J6412プロセッサ豊富なI/O搭載コンパクトファンレス産業用PC「SBシリーズ」
キャパシタ搭載産業用UPS電源「SuperCAPシリーズ」～

ADTEC



製品サイト

<https://www.adtec.co.jp/product/industry/fapc-development>

「SBシリーズ」

豊富なI/Oを搭載し（USBポート×4ポート/LANおよびCOMポートは最大4ポート）、幅広い動作温度（-20℃～60℃）、コストパフォーマンスに優れた「Intel J6412（以下J6412）」を搭載し、豊富なI/Oと幅広い動作温度を実現した、コンパクトファンレス産業用エッジコンピュータ

SB-122-1J64



SB-226-1J64



SB-142-1J64



SB-244-1J64



「SuperCAPシリーズ」

蓄電部に従来一般的な鉛蓄電池を用いる代わりにキャパシタを採用した長寿命でメンテナンスフリーな産業用UPS
従来の鉛蓄電池方式のUPSより長期の使用が可能

SCP-43-MK2



SIP-42B



SIP-41B



プレスリリース 2024.12.10

世界最多の88,000店舗がその名を冠する『沙県小吃（サーシェン・シャオチー）』の日本国内運営店舗に業務用フライヤー後付けデバイス「揚げものGO」を導入

～ 食用油の使用量削減 × 料理の品質向上 × 安全性や清潔性の向上 ～



®

株式会社SHAXIAN SNACKSが日本国内で運営している5店舗『沙県小吃（サーシェン・シャオチー）』に「揚げものGO」導入いたします。

今後は、日本で新規出店する全ての店舗に、業務用フライヤー後付けデバイス「揚げものGO」の導入を予定しております。

[導入店舗]

沙県小吃 鶴見店：神奈川県横浜市鶴見区豊岡町2-2 ツルミフーガ2 4F

沙県小吃 上野店：東京都台東区上野3-17-5 1F

沙県小吃 西川口店：埼玉県川口市並木3-31-29 1F

中華料理 雅亭 御徒町本店：東京都台東区台東4-29-5 (系列店)

山海楼 御徒町店：東京都台東区台東4-28-2 (系列店)

株式会社SHAXIAN SNACKS

代表取締役社長 神谷 好一

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5 JACCビル4F

<http://shaxian.jp>

沙県小吃（サーシェン・シャオチー）

中国沿岸部にある福建省三明市の沙県が発祥の福建料理や中華料理のファストフードチェーン。

米国、日本、フランスを含む世界66の国と地域で、世界最多の88,000店舗数（2023年時点）を展開。



飲食店の油革命

揚げ物を美味しく

ベタつき低減

利益アップ

揚げものGO

製品サイト

<https://www.adtec.co.jp/product/agemonogo/>

04-2

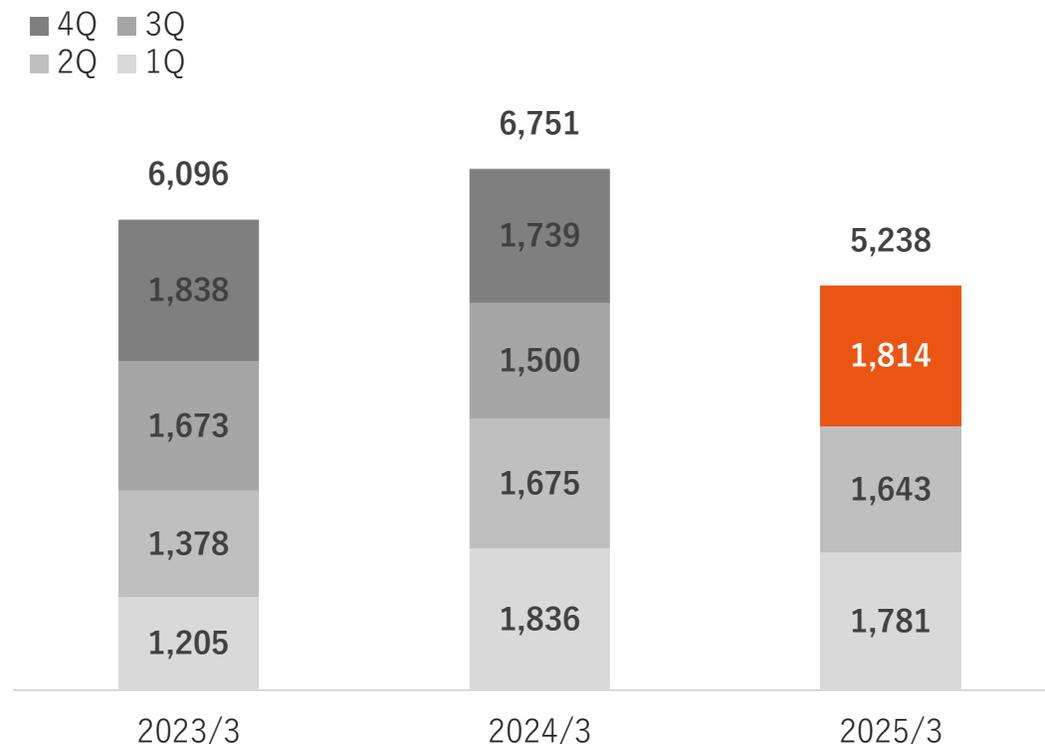
セグメント別概況 (通信建設テック)



新規案件積み上げと新規連結子会社の寄与で 前年同四半期を上回る売上高を確保

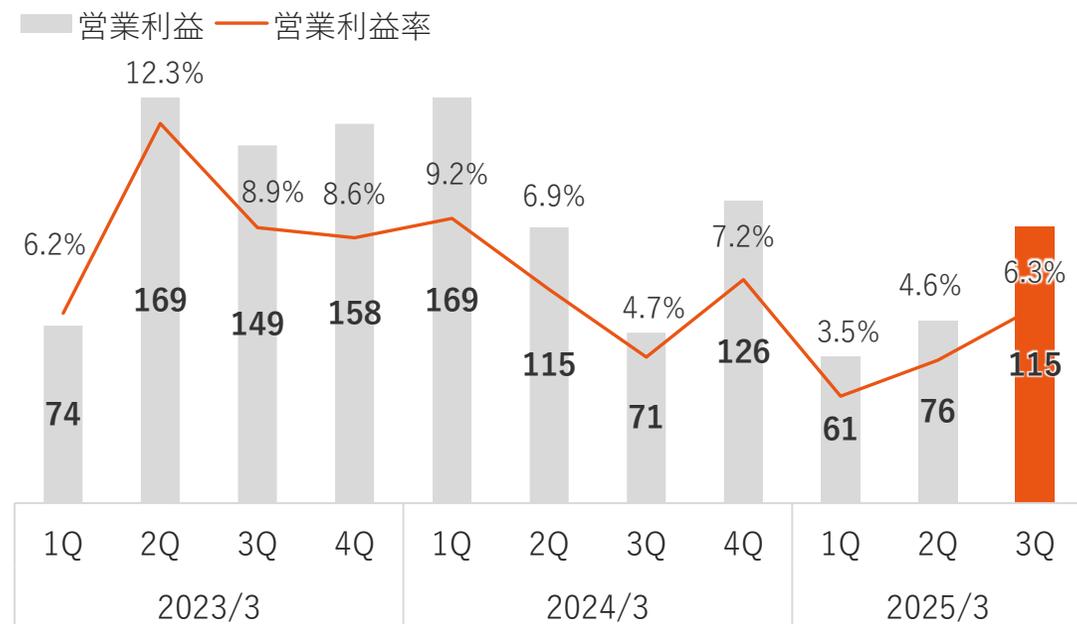
- 既存領域の通信キャリアの工事案件が堅調に進捗
- クラウドカメラ、サービスロボットやコンタクトセンターの案件規模拡大などの設置・保守関連等の新規領域の受注数増加
- 中部エリア強化に向けて株式取得したブランチテクノ社の連結に伴う売上高への寄与（24年7月から連結開始のため24年7月～12月分が新規連結寄与）
- 既存領域の受注及び新規領域の開拓を更に推進することで、継続的な成長を目指す
- 通信土木や電気工事、再生可能エネルギー分野等の強化を含め戦略的な組織再編として、25年3月末をもってバディネットとリーバンの合併を決定

売上高

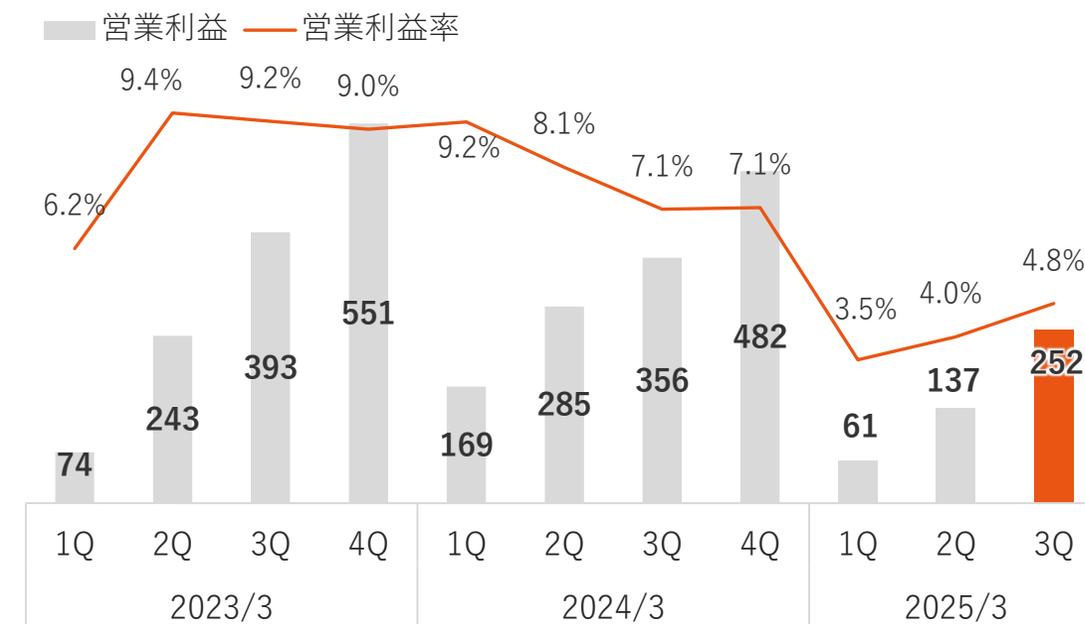


成長投資による販管費等の増加する中、堅調に利益確保

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 既存領域の案件の堅調な積み上げと新規領域の売上拡大により継続して利益確保
- バディネット、リーバンの合併を含め、グループの連携強化や事業体制の強化を図るための投資を推進し販管費が増加
- 大手通信キャリアの案件減少はあるもののEV、データセンターや再生可能エネルギー領域の工事需要拡大に伴い社内体制の見直しを実施

プレスリリース 2024.11.01

通信建設テック®バディネット、コーポレートサイト全面リニューアル



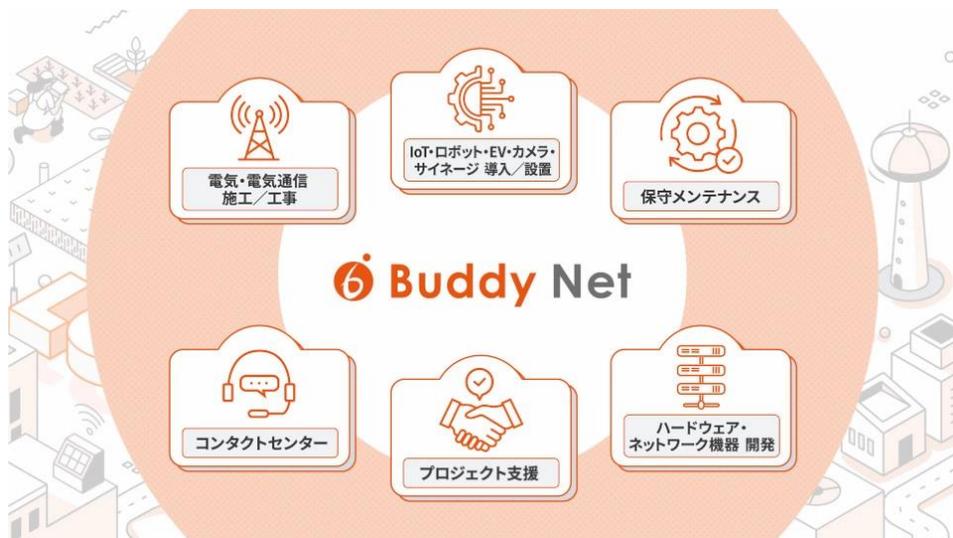
▶ コーポレートサイトURL : <https://www.buddynet.jp/>

今後ますます高まる通信建設業界の需要にお応えしていくために、コーポレートサイトのデザインを一新し、お客様の課題を解決するソリューションページの新設、バディネットの想いや事業を紹介する動画の公開、自社と通信建設業界をオープンにしていくオウンドメディアの開設など、コンテンツの拡充を行いました。



プレスリリース 2024.12.13

バディネットの「6つのソリューション」の紹介動画を公開



–バディネットの6つのソリューション–

- ① 電気・電気通信 施工/工事
- ② IoT・ロボット・EV・カメラ・サイネージ 導入/設置
- ③ 保守メンテナンス
- ④ コンタクトセンター
- ⑤ プロジェクト支援
- ⑥ ハードウェア・ネットワーク機器 開発



【動画URL】

- ▶ フルバージョン：<https://www.youtube.com/watch?v=7T6xSgQXO4E>
- ショートバージョン：<https://www.youtube.com/watch?v=MEMJGR369BU>

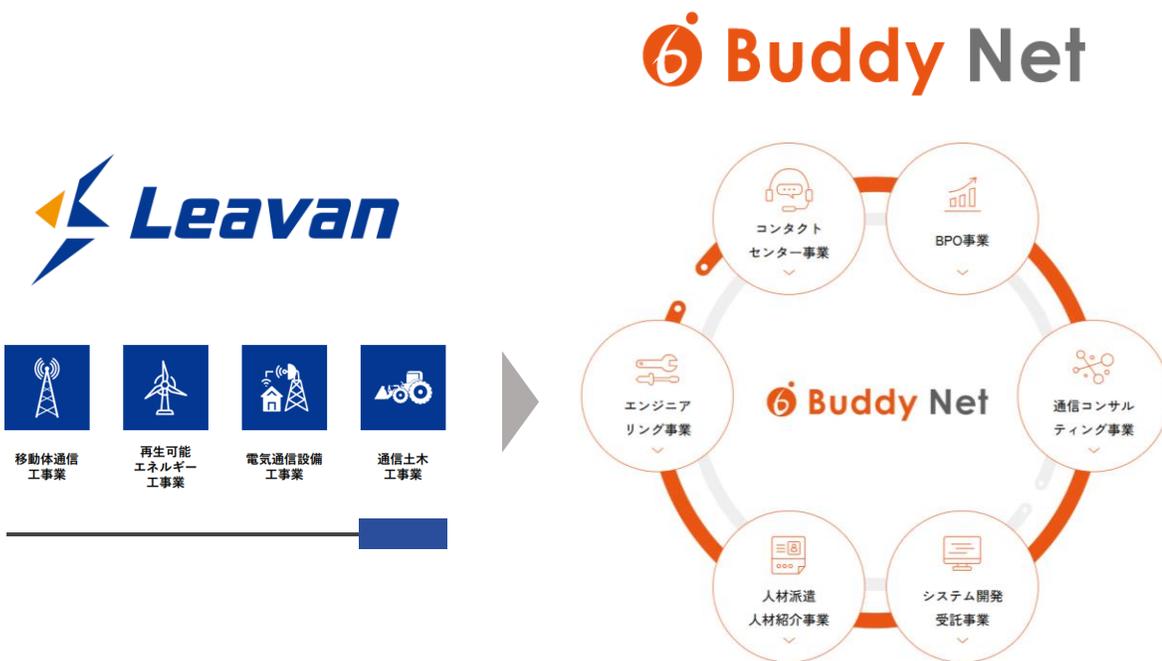
近年の情報通信の急速な技術革新と、様々なIoT機器やロボット、AIカメラなどのテクノロジーの進化により、通信建設需要は急速に高まるとともに、建設ニーズは多様化しております。この多様化するお客さまのニーズに素早く的確に対応可するために、お客さまの課題やご要望と当社の各種事業を掛け合わせることで課題解決を生み出す新コンテンツ「ソリューション」として、既存の「事業内容」を再定義いたしました。

今回公開した「ソリューション動画」は、この通信建設業界ではまったく新しい打ち出しである「ソリューション」をアニメーションで分かりやすく表現しています。動画では、「ソリューション」の概要とともに私たちの考えや想い、事業を推進する体制や実際の取り組みなどの情報を映像化することで、当社への理解促進を目指しております。

プレスリリース 2024.12.27

バディネットによる子会社リーバン吸収合併で、再エネ事業を加速

株式会社バディネットが、2024年12月27日開催の取締役会におきまして、子会社である株式会社リーバンを、2025年3月31日を効力発生日として吸収合併することについて決議しました。



吸収合併の目的

近年、気候変動への対応や再生可能エネルギーの導入加速が世界的な課題となる中、日本国内においても、太陽光や風力発電をはじめとした大規模インフラプロジェクトの需要が急速に拡大しています。リーバンにおいても、特に太陽光発電などの再生可能エネルギー分野に関する高度なスキルと経験は、中国エリアのみならず、全国的に引き合いが増加しております。

しかし、リーバン単体の資金力、拠点体制では全国的な大規模インフラプロジェクトの需要に対応するには限界があり、この改題を解決すべく本合併を実施することに致しました。これにより、両社が持つ資金力、技術力、全国的な拠点ネットワークを掛け合わせ、これまで以上に大規模な工事案件を受注できる体制を構築することが可能になり、急速に拡大する太陽光や風力発電をはじめとした大規模インフラプロジェクトの需要に対応してまいります。

本合併は、両社の強みを結集し、成長を加速させるための戦略的な決断であると同時に、地域社会や地球環境への貢献を深める機会と捉えています。両社は、合併後もそれぞれが培ってきた信頼と実績を土台に、さらなる成長とイノベーションの創出を目指してまいります。

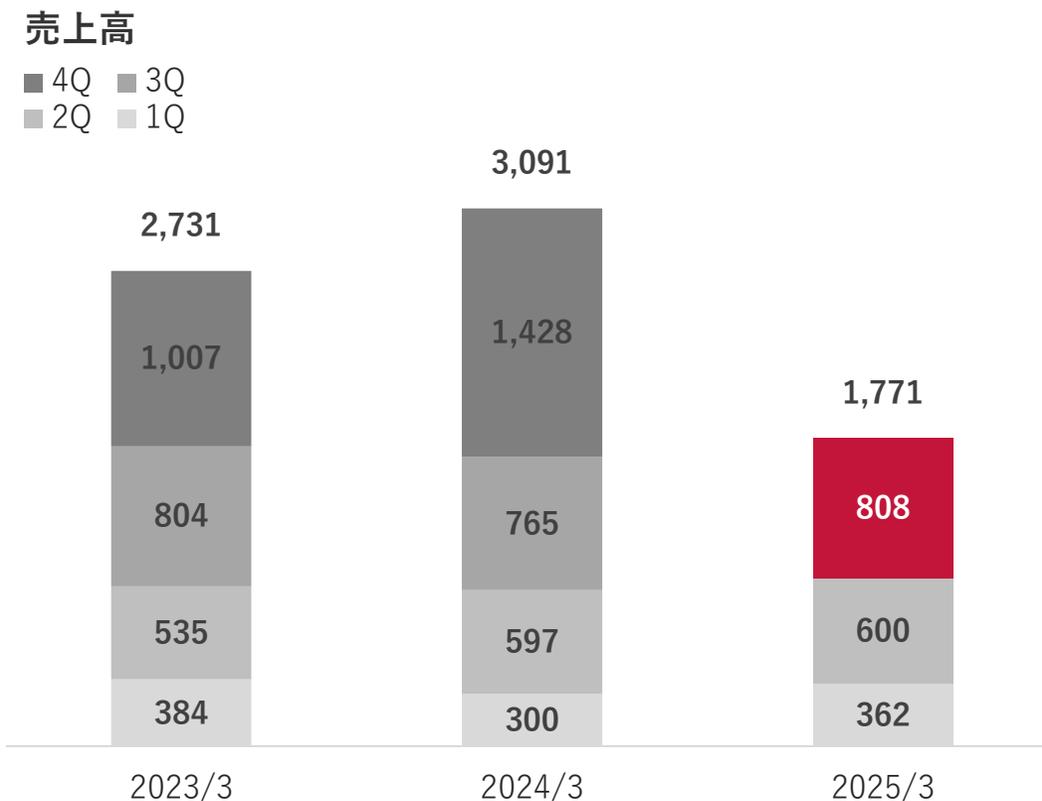
04-3

セグメント別概況 (HPC事業)



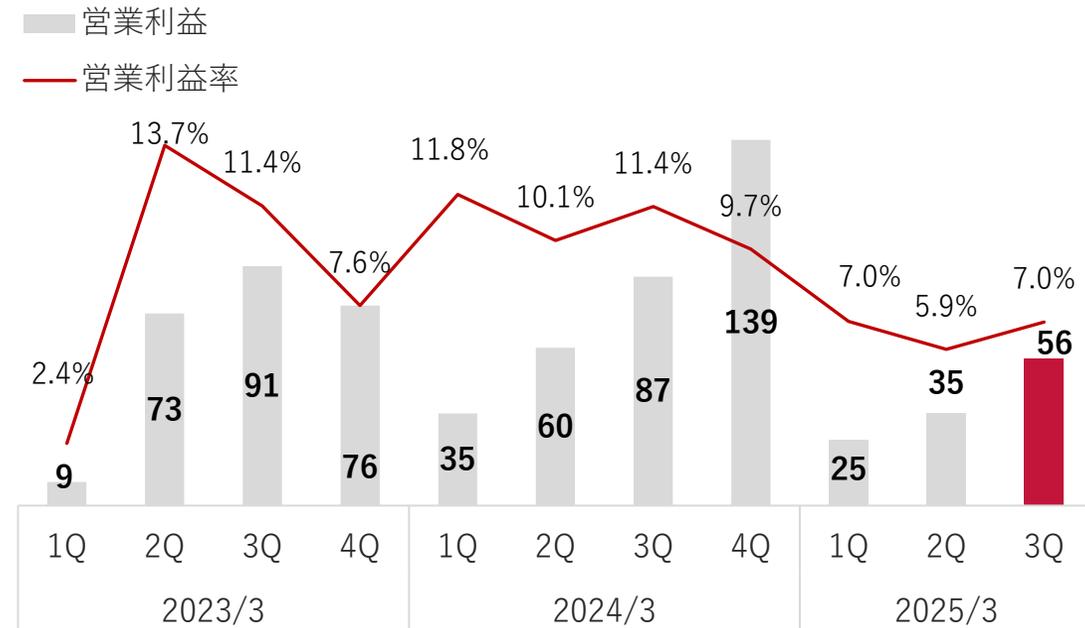
積極的な営業展開により堅調な売上高を継続

- 学会やイベントへの参加を積極的に実施し、機器展示等を行うほか、販促キャンペーンを実施し、顧客の取り込みに努める
- 購買と営業の連携による短納期化にも取り組むことで、前年同四半期を上回る売上高を確保

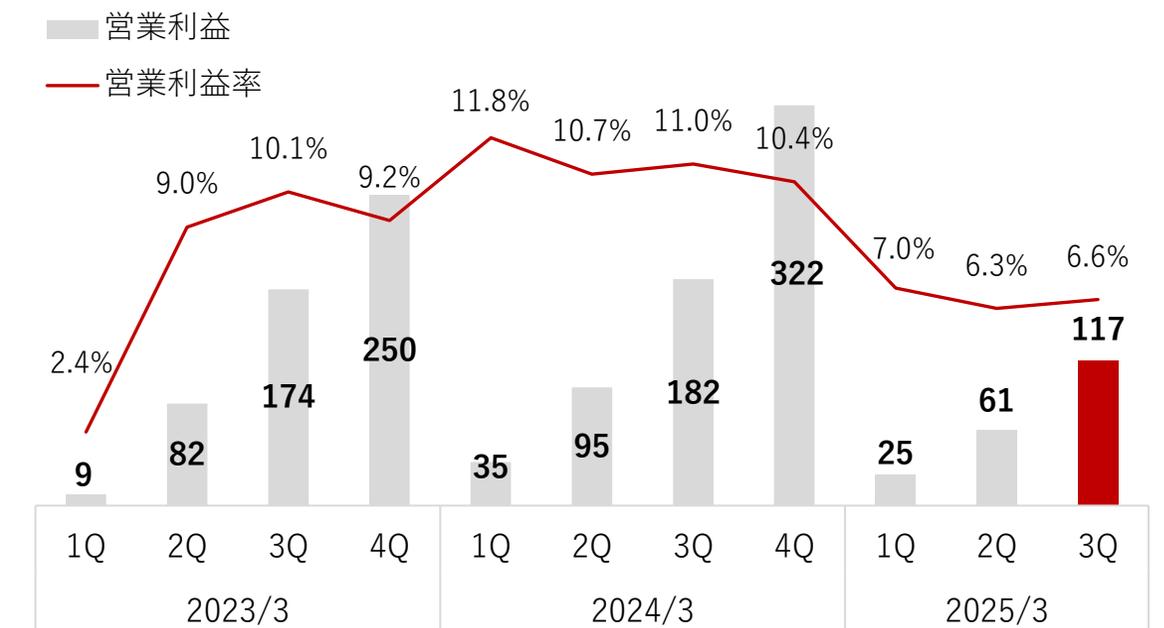


営業利益についても堅調に積み上げを継続

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 競争環境の激化や原価の高騰並びに為替の影響により、利益率に一定の懸念点はあるものの、購買・入荷期間の短縮を進め納品までの短納期化を推進
- 学会やイベント参加による対面販売機会を確保しつつ、最繁忙期の4Qに向けた販促活動展開を行い、受注高の積み上げを推進

学会・展示会へ参加、積極的に対面営業を展開

学会・展示会への参加 【機器展示】

日本機械学会 第37回計算力学講演会（CMD2024）

2024年10月実施

NVIDIA AI Summit 東京

2024年11月実施

COMSOL Conference 2024 Tokyo

2024年12月実施

Advancing AI & HPC 2024 Japan

2024年12月実施

第38回数値流体力学シンポジウム

2024年12月実施

人工知能学会 合同研究会2024（SIGAIs 2024）

2024年12月実施

キャンペーン/商品取扱開始

NVIDIA RTX 6000 Ada 搭載ワークステーション即納キャンペーン

2024年10月～

NVIDIA H200 PCIe 141GB NVL

2024年11月～

Sparticle社『企業向けナレッジシェアツール GBase OnPrem』
インストール済み GPUサーバの販売を開始

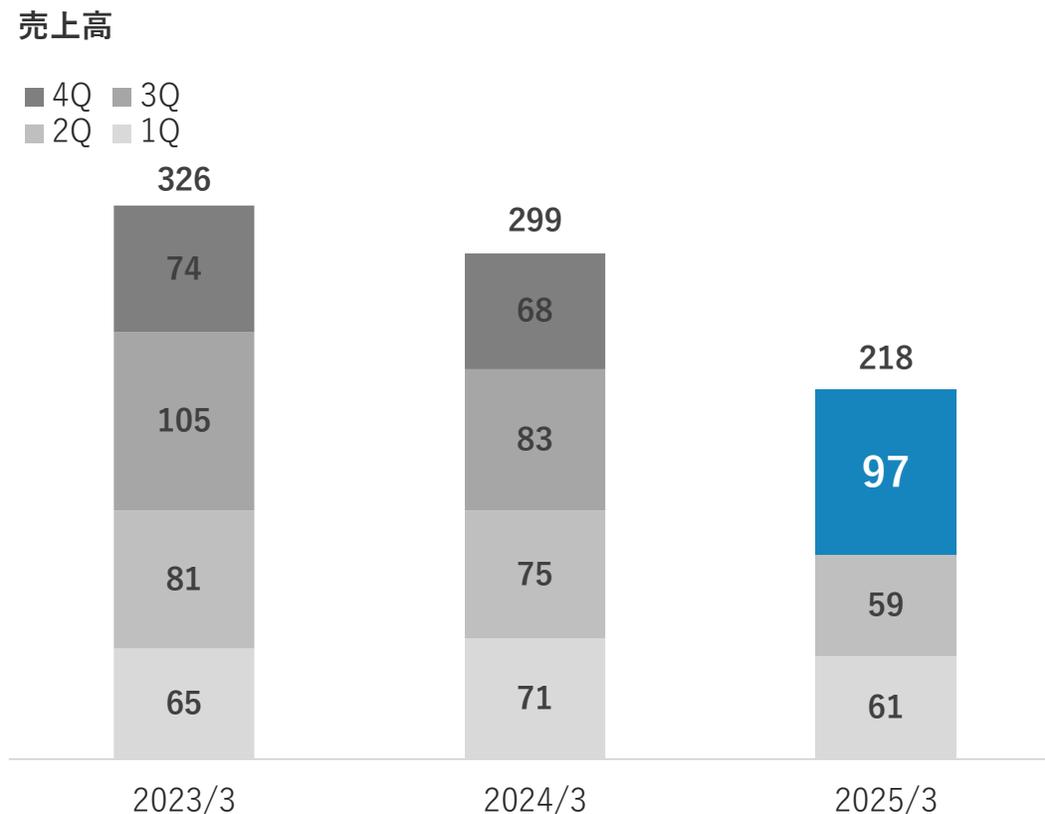
2024年12月～

04-4

セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)

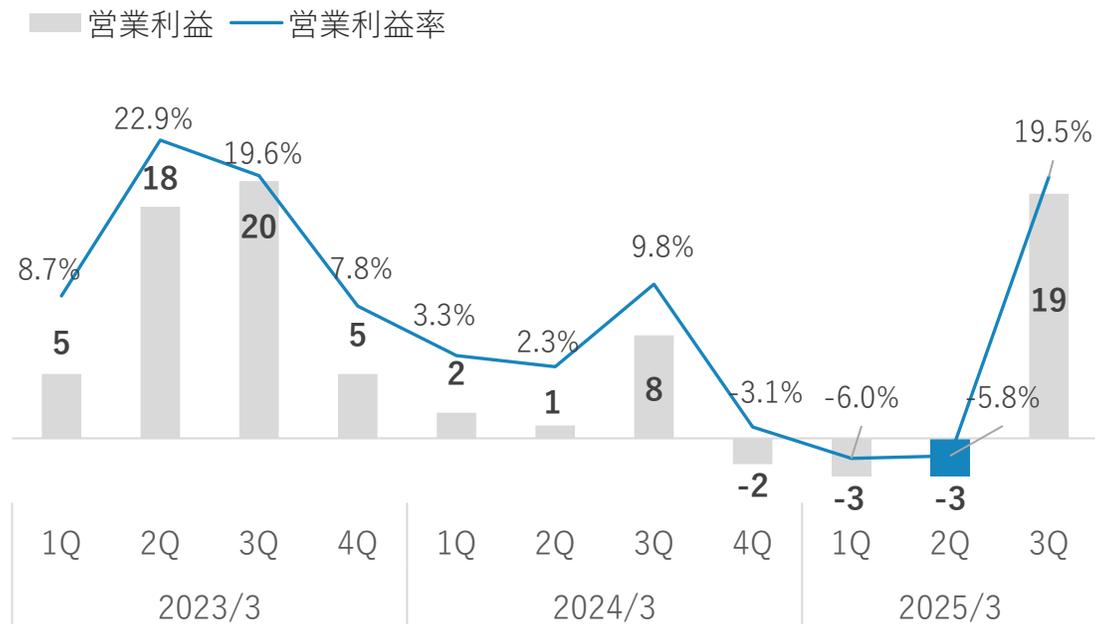
紅葉による行楽シーズンが遅れるも、前年同期を上回る売上高を確保

- 紅葉による行楽シーズンが遅れた影響により、予約数のピークに一部遅れがみられたが、キャンペーンの実施などにより、3Qは前年同四半期を上回る売上を確保
- リピート客向けのサービスが奏功し、取り組み継続で需要喚起
- ペット同伴旅館の特性を生かした施策の実施により、新規顧客獲得増加を図るとともに、リピート客向けサービス拡充でさらなるリピート率向上を目指す

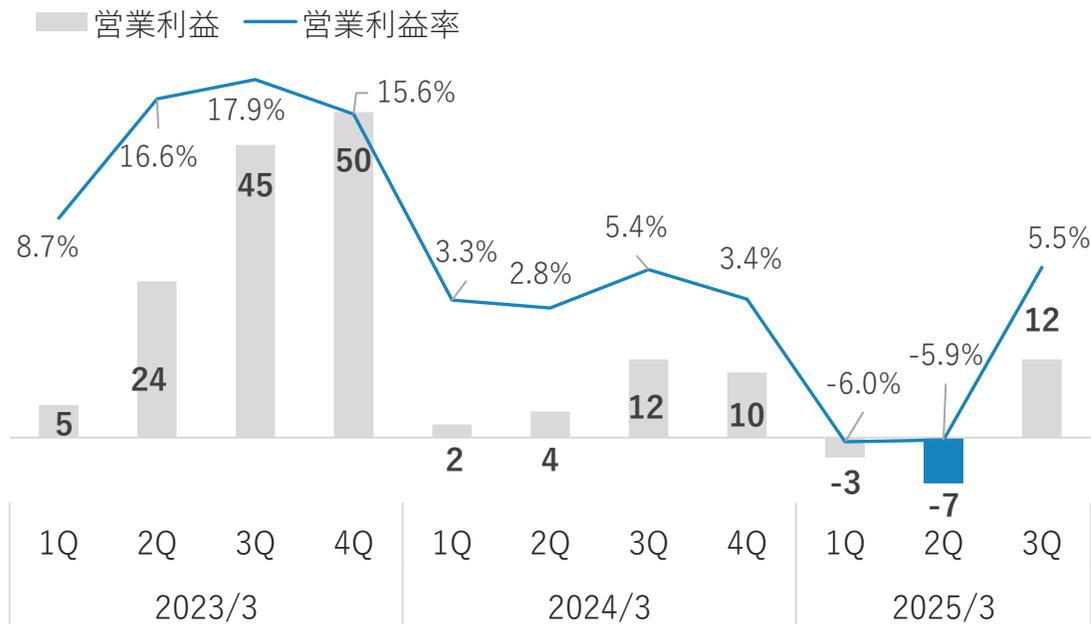


行楽シーズンを迎える中、オペレーション改善によるコストコントロールで前年同四半期を上回る利益を確保し3Q累計でも黒字に

営業利益 会計期間



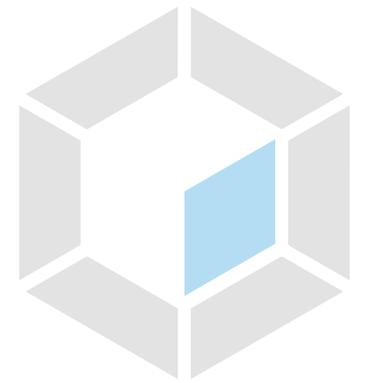
営業利益 累計期間



- 各種費用の見直しによるコストコントロールが奏功
- ピーク時の運営オペレーション見直しで利益率改善

05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	405名（連結 2024年12月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 経営戦略本部長 白鳥 俊昭 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 取締役（社外） 中川 英之 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 上林 三子雄 監査役（社外） 西田 史朗 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、 純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業 （ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

